

刊行の辞

大東文化大学経済研究所長 古屋 核

大東文化大学経済研究所は、経済学部附置の研究所として32年前（1987年）に設立され、研究報告書としての本誌も第32号の刊行を迎えることとなりました。

本号には、本年度（2018年）7月21日開催の第38回経済シンポジウムにおける報告論文1篇、研究員からの寄稿論文2篇を掲載しています。

本年度の経済シンポジウムは、大学院経済学研究科（共催）・大東文化大学経済学会（後援）の協力を得て、「中国の労働市場と賃金決定」というタイトルの下に開催しました。講師には馬欣欣（一橋大学経済研究所）、杉田洋一（一橋大学大学院経済学研究科）の2氏、また討論者には本学経済学部より内藤二郎、顧濤の2氏を迎え、中国労働市場の変遷と現状について、非常に興味深い報告・議論が得られました。シンポジウムの企画・運営に御尽力いただいた講師・討論者の先生方、池田剛士研究部会長、学部事務・研究所スタッフの方々はこの場を借りて御礼申し上げます。

本研究所が設立された1987年から約30年間、日本・世界ともに経済情勢は大きく変化し、将来を見通すこともますます困難になっています。本研究所では、今後も社会の要請に応え、学内外にその存在を示すべく、実のある研究事業を推進していきたいと考えています。皆様方の尚一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。